

リーマンショック後の経済不況下における ブラジル人労働者

— A社ブラジル人調査から —

山本かほり・松宮 朝¹⁾

1. 研究調査の概要

本稿は JICA 横浜・海外移住資料館の研究助成を受けて 2009 年より実施している「経済不況下における在日日系ブラジル人の実態および社会統合への課題」の研究成果の一部である。

本研究は 2008 年秋に起きた経済危機が在日ブラジル人に与えている影響を把握することを第一義の目的としている。2008 年秋のリーマンショックに端を発した雇用危機は大量の非正規雇用労働者の解雇という事態をうみだした。特にブラジル人の「派遣切り」は新聞などでも頻繁に報道された。例えば、『毎日新聞』は 2008 年 12 月に「外国人たちの 08 冬」という特集を組み、失業した在日ブラジル人たちの困難を様々な角度から報じた。そこから浮かびあがるブラジル人は非常に不安定な非正規雇用者であり、さらには日本社会のセーフティネットからこぼれ落ちていくものであった。実際、地域でみられたブラジル人を取り囲む事態の深刻さをうけて、ブラジル人が集住する地方自体や地元の NPO など緊急実態調査を行い、速報のような形で公表もした。それらから見えてくるブラジル人の状況も、やはり非常に厳しいものだった。

また、研究者による調査もいくつか行われ、その成果が公表されてきた。たとえば、樋口 (2010) は失業の実態やその国際比較を行っており、EU 圏との比較でも、日本で圧倒的に高い失業率となっていたことを明らかにしている。こうした急変について、筆者らは、リーマンショック前後の愛知県西尾市の調査 (山本・松宮, 2009a, 2009b; 松宮, 2010)、集住都市での地域間比較 (松宮, 2011a)、自治体の多文化共生政策 (山本, 2011) などから分析・考察を行ってきた。

ただ、リーマンショックから 2 年半、その後の継続的

な調査研究は多くないように思われる。現在、経済不況がブラジル人労働者やブラジル人住民にどのような影響を及ぼしているのか、また、ブラジル人のコミュニティにどう影響しているのか、さらには日本人との関係にどのような影響を与えているのかについては、実態が明らかにはされていない。本研究では、このような課題を実証的にとらえることを最大の目的としている。具体的な調査地域は、愛知県豊田市・西尾市、三重県鈴鹿市、滋賀県長浜市である。それぞれ、トヨタ自動車、ホンダ自動車、そして、福井県まで含む中小零細の製造業に関連した工場でブラジル人が多く働き、居住しているという特徴をもつ。現在まで、現地におけるインタビュー調査や参与観察、さらには、長浜におけるブラジル人へのアンケート調査、それと比較する上で、日本国内では大手といわれる愛知県内の派遣会社 (A 社) が雇用するブラジル人に対するアンケート調査を実施してきた。

ところで、地域に焦点をあてた研究に対する批判も国際社会学、移民研究の立場から出されていることは承知している (梶田・樋口・丹野, 2005)。地域での研究は、ブラジル人をとりまくマクロな構造、つまり、国家、市場という構造変数が抜け落ちており、地域での「共生」を安易に論じることにより、結果、それが同化の強要 (地域への包摂) につながる論理構造をもっているというものである。

こうした批判に対して、私たちは、ブラジル人に関わる問題を地域からとらえることの限界と有効性をも検討してきた (松宮, 2011a)。たしかに「外国人問題」を説明する基本的な部分は国家・市場という構造に規定されている。しかし、その具体的な現象はその地域に埋め込まれた固有のものが影響しているのではないかと、そして、その「問題」の現れ方の地域類型の構成、その地域

ごとの現象を説明することが共通したメカニズムの析出につながるのではないだろうかと考えている。また、地域社会において、日本人とブラジル人がいかなる社会関係を構築しているのかという分析視点は「共生」という概念で説明するものであり、地域レベルでの考察に一定の意味があるのではないかと考えている。

このような点を確認した上で、リーマンショック後に変容した（と思われる）ブラジル人の実態を把握し、そして、今後、日本社会に「統合」する上での課題を検討していきたい。なお、「統合」とは、「異なるエスニック集団が、社会文化的領域で集団と境界と独自性を維持しつつ、政治経済的領域での平等を可能にすること」（梶田・樋口・丹野, 2005: 208）というものであるが、われわれは少し遠回りかもしれないが、地域において、日本人とブラジル人がいかなる社会関係を構築しているのかという分析視点をもち（すなわち「共生」）、その社会関係がいかに「統合」を推進するのかについて、地域レベルから考察を加えたいと考えている。

2. 本稿の目的と調査

2-1. 本稿の目的

リーマンショック後の経済不況下におけるブラジル人の生活状況について、実際にどのような変化が生じたのだろうか。前節でふれた筆者らの研究は、地域ベースの、地域に定住する／定住を志向するブラジル人を対象とした調査研究である。これに対して、定住化、生活基盤の安定化を重視していた地域ベースの議論ではなく、労働市場の問題から定住化に留保をつける視点が圧倒的に正確であるという批判もある（樋口, 2010: 55）²⁾。ここでは、ブラジル人の「定住化」、「生活基盤の安定化」を前提とする議論が否定的にとらえられている。

樋口はさらに外国人登録者数の推移を詳細に検討し、在日南米人のうち、一体、どのような人々が経済危機後ブラジルに帰国したのか（日本を離れたのか）を分析している。経済危機後、2008年9月からの15ヶ月間でブラジル人人口が25%減少（約8万人減）したことを指摘し、在留資格別でも「永住者」も2割ほど減少していることを重視し、「永住資格を取得するくらいの長期滞在層でも生活基盤は不安定だった」（樋口, 2010: 54）と論じる。また、さらに、樋口（2011）では、ブラジル人の年齢別の人口推移を分析し、15歳から29歳の年齢層が最も減少したことを明らかにしている。これは、この年齢層が学業からすでに離れており（つまりは、高校進学していない）、かつ独身者が多いことが推定されることから、離日が容易だったのではないかと述べてい

る。減少幅が最も低いのは45-64歳層であり、この層は経済危機前から自動車産業などでの就業は困難であり、弁当などを中心とする食品関連に従事、経済危機の直接的な影響は受けなかったと推察する（樋口, 2011: 149-150）。さらに、若年層は最近のブラジルの好景気を背景に帰国しやすく、逆に中高年層はそうした恩恵も受けることができないので滞日せざるを得ないと指摘する（樋口, 2011: 150）。

もっとも、日本の労働市場で、日系人労働者に対する需要がなくならないのは、安価で簡単に切ることができる労働力への需要が以前にも増して強く、ブラジルでのビザ支給については減少を見せつつも続いており、「フレキシブルな労働力」としてのブラジル人を必要とする構造は変わっていないという指摘もある（丹野, 2009b）。この点からすれば、フレキシブルな労働力としてブラジル人を中心とする日系人労働者に対して一定の需要が存在し、ブラジル人の雇用がなくなるわけではない。こうした状況においては、2008年秋の経済不況後、どのようにブラジル人の労働・生活状況が変化したのか、そして今後のあり方について目を向けることが重要な課題となる。本稿の目的は、日本に残ったブラジル人の生活実態を明らかにすることである。これまでの研究では、リーマンショック直後、主に失業の問題に焦点が当てられていたが、本稿では約2年が経過した時点で、日本に残ったブラジル人の生活の実態を探ったり、リーマンショック後の経済不況下におけるブラジル人の生活実態と今後の可能性を考えてみたい。具体的には次の2点に絞り検討していく。

第1に、日系人が多く働く工場の労働力需要は20代後半から30代前半に集中（丹野, 2009a: 46）し、生産性とコストが求められるからこそ、日本語能力が解雇をめぐる決定的な要因（丹野, 2009b: 28）となっているという。特に日系人労働者については選別が行われているとされる性別、年齢、滞在資格などの属性の特色、家族等の社会関係、日本語能力など、実際に経済不況後に職を得た人はどのような層なのかをデータで確認する。

第2に、日系三世・四世ないし二世の非日系配偶者をもっとも速いペースで減少していることに関連して、①日本語能力の相対的に低い三世・四世が解雇される確率が高いとする「日本の労働市場連動説」、②若年層がブラジルでの就労可能性が高いゆえに日本での生活に見切りをつけて帰国したという「ブラジルの労働市場連動説」が仮説的に提示されている（稲葉・樋口, 2010: 26-27）。今後の日本での生活について、これまでも定住化が進むか、トランスナショナルなど議論されてきたポ

イントだが、今後の生活についてどのような像を描いているかは、現在においても重要な課題である。本稿では、属性、経済的資源、社会関係、日本語能力、意識などの要因が、どのように定住／帰国に対する意識を規定するのかという点から分析を試みたい。

2-2. 調査方法

①概要

本研究の調査地のひとつ、長浜市において市内在住のブラジル人を対象にアンケート調査を2010年3月から4月に実施している。長浜では、訪問・留め置き・回収という方法で行い、また、地域のブラジル人に詳しいブラジル人に目視でブラジル人の家をさがしてもらい、訪問するという方法だった（近藤，2011）が、それでも一定の比較は可能だと考え、長浜調査票を一部修正の上使用した。

調査期間は2011年10月1日～10月31日である。調査対象者は、A社に雇用されているブラジル人労働者全体とした。調査票の配布・回収は、調査票をA社本社に送付し、A社からブラジル人雇用がある各営業所に送ってもらい、各営業所の担当者（ブラジル人・ブラジル人労働者の世話係ともいえる立場）を通じて、配布、回収を依頼した。回収の際には、封筒に入れて厳重に封をしてもらった。

雇用されているブラジル人労働者数には常に変動があり、A社自体でも母数を正確に把握することは困難であった。また、プライバシー保護の観点から、対象者の名簿入手はできず、母集団の確定もできなかった。A社に送付した調査票は900票、有効回収票は489票、無効票21票である。

②A社の対象者について

当初、A社雇用のブラジル人労働者対象のアンケート調査を企画した意図は、日本国内のブラジル人人口の半分をしめる東海地方のブラジル人の労働・生活実態を把握しようとしたからである。A社は1985年頃からブラジル人を雇用しており、その数も東海地区では最も多いために、調査の目的を遂行するためには適していると考えたからである。

2010年4月にA社を訪問して、調査の企画を話し、依頼をした。当時A社雇用のブラジル人は約1000人、うち半数以上が山陰地方のI地区M社での勤務、残り半数は東海地方だけではなく、関東地方にも散らばって勤務していると知らされた。この時点で東海地方と長浜の地域間比較は困難になったが、それでも、リーマンショック後のブラジル人の生活と労働実態を把握するという第一義的な目的は果たせると判断し、調査をそのま

ま実施することとした。ただし、回収用の封筒はI地区とそれ以外の地区は回収したときに区別できるように作成した。結果、有効票のうち、385票がI地区、それ以外の地区が104票となった。

③I地区M社でのブラジル人労働者

A社のI地区M社への派遣（正確には業務請負）は1993-94年から行っている。常に500人前後の雇用があるが、リーマンショック後の2009年はじめには約70人までに減少し、その後徐々に回復、現在は約500人の雇用が確保されているという。仕事の内容はセラミックコンデンサー製作で、重労働が多く、男性の募集が圧倒的に多いという。

ブラジル人労働者の採用は愛知県内のA社本社の人事担当者・T氏（日系ブラジル人）によって行われている。T氏によると、I地区M社で働くブラジル人採用には以下のような点について留意しているという。

(1) 単身者もしくは夫婦のみの家族構成であること

I地区（そもそも山陰地方）はブラジル人人口が少ないので、ブラジル人コミュニティが存在しない。

したがって、まずはブラジル人学校がないし、日本の学校でのブラジル人児童・生徒の受け入れ体制が整っていないため、単身者か夫婦のみの世帯を優先的に採用している。子どもまでいる家族をI地区に送るには慎重な判断が必要だ。残業もあるので、子どもの面倒をだれがみるのかという問題も出てくる。集住地によくあるブラジル人の託児所は存在しないので、子どもがいる世帯を採用するのは困難である（労働時間は8:30～20:30の12時間労働、残業も込み）。

(2) I地区で住めるのか？—明確な目的意識が必要—

山陰地方のI地区には「ブラジル人が暮らしていくためのインフラがない」（T氏）という。つまり、ブラジルスーパーなどはもちろんないし、遊ぶためのディスコなどもない。愛知での仕事と同じような気持ちでI地区に送ると離職率が高かったという経験があるので、慎重に判断をしている。なぜならば、初期定着費用（引っ越し代、アパート入居費用、生活備品代）として、35-40万円をA社が負担しなければならないからだ。短期間で離職されると、A社としては損失が大きい。

この2つを主たる条件として、あとはT氏の「長年の勘」で採用を決めていると話してくれた。さらにM社の労働条件は、時給ベースで男性は1200-1300円、女性は1000-1200円である。リーマンショック後、男性の時給がのきなみ1000円をきっている（900-950円）ことをみると、M社の賃金は労働者にとっては魅力的なものである。また、残業も恒常的にある。T氏によると、平均

で月30万円程度の稼ぎはあるとのこと。実際、平均月収をたずねた質問でも、20万円から35万円の間に回答が集中していた。

3. 調査データ

3-1. 調査対象者の属性

まず、調査対象者の属性について、今後、同種の調査結果の比較³⁾が必要ではあるが、ここでは単純集計を中心にその特色を見ていきたい。

回答者の性別は、おおよそ3/4が男性、1/4が女性となっている。

表1 性別

	度数	%
男性	358	73.2
女性	123	25.2
無回答	8	1.6
計	489	100

表2 年齢

	度数	%
～19	7	1.4
20～24	47	9.6
25～29	88	18.0
30～34	86	17.6
35～39	92	18.8
40～44	68	13.9
45～49	49	10.0
50～54	29	5.9
55～59	9	1.8
60～	3	0.6
無回答	11	2.2
計	489	100.0

年齢については、日系人が多く働く工場の労働力需要は20代後半から30代前半に集中しているという丹野清人の指摘（丹野，2009a：46）を裏付けるように、20代後半から30代前半が25.6%と約1/4を占めている。30代後半も18.8%と一定数あるが、40代前半から後半は13.9%→10.0%と低くなり、50代では前半5.9%→後半1.8%とさらに下がっている。A社は生産性が高い製造業中心に派遣をしており、2009年9月のA社での聞き取り調査においても、「半導体関係では40代半ば、自動車関係でも50代半ばくらいまでの人しか仕事はない」ことが指摘されていた。このように年齢が重要な雇用の条件となっていることがわかる。

表3 国籍

	度数	%
ブラジル	462	94.5
日本	5	1.0
ブラジル+日本	12	2.5
その他	6	1.2
無回答	4	0.8
計	489	100.0

国籍はブラジル国籍が94.5%であり、二重国籍は2.5%である。

なお、5名の「日本国籍」という回答については、先に述べた調査票配布の事情で、「ブラジル人」と担当職員から認知された労働者であると思われる。

表4 永住資格

	度数	%
永住資格あり	173	35.4
取得予定	157	32.1
取得しない	118	24.1
日本国籍あり	16	3.3
その他	19	3.9
無回答	6	1.2
計	489	100.0

永住資格についてはすでに35.4%が取得し、約1/3の32.1%が「取得する予定」と回答している。この「取得する予定」というニュアンスをどのように読み取るかが重要となるが、少なくとも、明確に「取得するつもりはない」という回答が24.1%であることと比較すれば、日本での中長期的の居住も視野に入れた層が一定程度存在するということが推測される。

表5 学歴

	度数	%
学校に通っていない	1	0.2
小学校中退	14	2.9
小学校卒業	13	2.7
中学校中退	20	4.1
高校中退	71	14.5
高校卒業	212	43.4
大学中退	86	17.6
大学卒業、それ以上	56	11.5
その他	1	0.2
無回答	15	3.1
計	489	100.0

学歴については、高校卒業が43.4%と最も多く、大学中退・卒業の合計が29.1%である。高校中退を含めると、高校進学者が9割近くにのぼる。この点について、入管

法改定直後の初期に来日した層は学歴が高く、年々渡日する層が若年化するにともない中学校卒業のブラジル人の参入による低学歴化の進行が指摘されていた（梶田・丹野・樋口、2005：266）が、本調査データからは相対的に学歴の高くなっていることが明らかであり、教育による何らかの能力が雇用の際に効果をもたらすことをうかがわせる。

3-2. 日本での居住歴

表6 来日のきっかけ

	度数	%
日本生まれ	6	1.2
子ども時代、親と一緒に来日	25	5.1
ブラジルで派遣会社の募集	221	45.2
家族・親族に誘われたため	122	25.0
恋人・友人に誘われたため	23	4.7
その他	75	15.3
無回答	17	3.5
計	489	100.0

そもそも、日本で暮らすきっかけはどのようなものだったのか。来日のきっかけは、「ブラジルで派遣会社の募集」が45.2%と最も多く、「家族・親族に誘われた」が25.0%、「恋人・友人に誘われた」が4.7%と合わせて約3割である。

表7 最初の来日年

	度数	%
～1989	31	6.3
1990	44	9.0
1991	44	9.0
1992	28	5.7
1993	5	1.0
1994	17	3.5
1995	24	4.9
1996	22	4.5
1997	22	4.5
1998	20	4.1
1999	15	3.1
2000	28	5.7
2001	16	3.3
2002	15	3.1
2003	22	4.5
2004	22	4.5
2005	23	4.7
2006	27	5.5
2007	30	6.1
2008	14	2.9
2009	5	1.0
2010	5	1.0
無回答	10	2.0
計	489	100.0

最初の来日年については、1990年、1991年という入管法改定直後の段階でどちらも9.0%と多くなっている。その後1993年が1.0%と減少している以外、1990年代、2000年代のどの年においても概ね3～5%を占めている。なお、2009年、2010年とリーマンショック後においてもそれぞれ5名ずつ新規に来日している。

表8 日本での移動の回数

	度数	%
0回	14	2.9
1回	36	7.4
2回	67	13.7
3回	78	16.0
4回	74	15.1
5回	56	11.5
6回	33	6.7
7回	33	6.7
8回	20	4.1
9回	6	1.2
10回～	45	9.2
無回答	26	5.3
計	489	100.0

日本での移動の回数は2～5回が10%を超え、「10回以上」も9.2%となっている。これまで指摘されていたように、頻繁な国内移動の様子をうかがい知ることができよう。

表9 現在地での居住開始年

	度数	%
～1999	21	4.3
2000	12	2.5
2001	2	0.4
2002	6	1.2
2003	5	1.0
2004	9	1.8
2005	18	3.7
2006	15	3.1
2007	34	7.0
2008	25	5.1
2009	157	32.1
2010	169	34.6
無回答	20	4.1
計	489	100.0

現在地での居住年数については、2009年からという回答が32.1%で、1年に満たない2010年からという回答が最も多い34.6%と、合計すると約2/3を占めている。

これらのデータからは、2008年秋から2009年に失業を経験した層が、新たにA社を通じて雇用されている状況を見てとることができる。

表10 日本での居住年数の合計

	度数	%
1年	17	3.5
2年	36	7.4
3年	36	7.4
4年	28	5.7
5年	20	4.1
6年	34	7.0
7年	25	5.1
8年	15	3.1
9年	20	4.1
10年	50	10.2
11年	17	3.5
12年	23	4.7
13年	17	3.5
14年	11	2.2
15年	22	4.5
16年	16	3.3
17年	10	2.0
18年	16	3.3
19年	17	3.5
20年～	34	7.0
無回答	25	5.1
計	489	100.0

日本での居住年数の合計を見てみると、「1～4年」という比較的短期間の層が約1/4、「5～9年」が約2割、相対的に長い「10～14年」、「15年以上」がそれぞれ約1/4となっている。

表11 来日回数

	度数	%
1回	135	27.6
2回	134	27.4
3回	95	19.4
4回	50	10.2
5回	22	4.5
6回～	31	6.3
無回答	20	4.1
計	489	100.0

来日回数については「1回」、「2回」がそれぞれ27.6%、27.4%と合わせて半数を超える。

ここから直接的には、頻繁な日本とブラジルの移動というトランスナショナルな空間形成の姿は浮かび上がってこない。

3-3. 労働、生活状況

表12 2008年秋以降の失業経験

	度数	%
失業した	250	51.1
失業していない	213	43.6
無回答	26	5.3
計	489	100.0

さて、2008年秋以降、失業した経験は51.1%と半数を超えている。調査時点の2010年秋の段階で就労している層においてさえ、半数以上が失業を経験しているという事実に驚かされる。

表13 2008年秋以降の変化⁴⁾

労働時間の減少		収入の減少		住居の変更		生活保護受給	
度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
298	60.9	355	72.6	181	37.0	109	22.3

そして、「労働時間の減少」が60.9%、「収入の減少」が72.6%と、2010年で就労している層においても、大きな影響を受けたことがわかる。

さらに、生活面でも住居を変わらなければならなかったという回答が37.0%、そして生活保護を受給したという回答も22.3%と2割を超えている。

では、現時点での経済的状況はどのようなものだろうか。

平均月収は、20万円と30万円の2つの山があり、20万円～35万円の間集中している(図1)。先に見てきたように、経済不況後収入が下がったという回答が7割

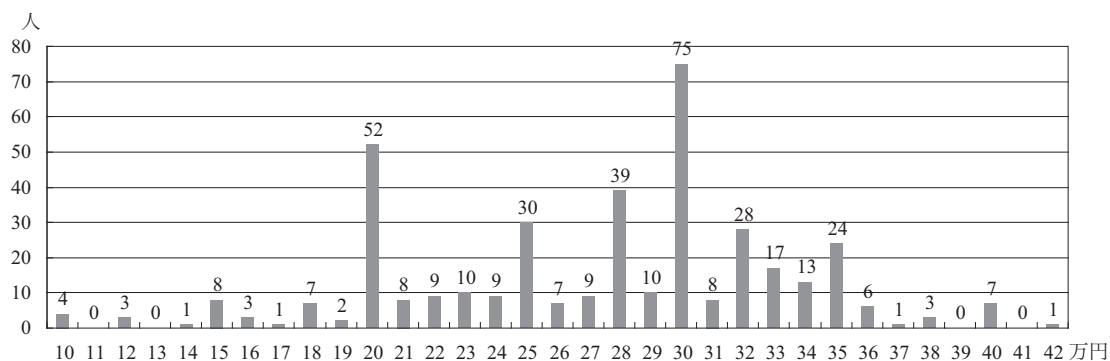


図1 平均月収

以上にのぼるわけだが、A社を通じた派遣では30万円前後の月収を確保している層が一定程度存在していることがわかる。

表14 貯金

	度数	%
している	250	51.1
以前はしていたが現在はしていない	103	21.1
していない	108	22.1
無回答	28	5.7
計	489	100.0

貯金については、「している」が約半数の51.1%と約半数である。逆に「していない」が22.1%、「以前はしていたが現在はしていない」が21.1%と、近年の景気悪化の影響を認めることができるかもしれない。

表15 円での貯金額

	度数	%
～9万円	37	23.1
10～49万円	64	40.0
50～99万円	40	25.0
100～199万円	19	11.9
200万円～	10	6.3
計	170	100.0

もっとも、貯金をしている場合でも、その額を見ると、9万円未満が23.1%と1/4近く、10万円以上50万円未満が4割というように、決して多いわけではない⁵⁾。

表16 母国への仕送り

	度数	%
していない	158	32.3
1～4万円	43	8.8
5～9万円	95	19.4
10～14万円	76	15.5
15～19万円	40	8.2
20万円以上	23	4.7
無回答	54	11.0
計	489	100.0

母国への仕送りについては、「していない」が32.3%と約1/3である。

この点に関連して、2005年9月に実施された群馬県太田市の人材派遣会社調査、2006年11月に実施された愛知県豊橋市調査の分析では、人材派遣会社に勤務する約半数が母国に送金しており、5～10万円未満が32.5%、10万円以上の者が26.2%も存在していた（小内・浅川・都築，2010：95-96）。送金による母国とのつながりが重要であるものの、2008年秋以降、日本から

ブラジルへの送金額が減少しつつあることも指摘されてきた。この点について、調査時においても、5～9万円の仕送りをしている層が約2割で、10万円以上の送金をする層も3割近くにのぼることは、送金による母国とのつながりが保持されていることを示している。

表17 ブラジルでの不動産所有

	度数	%
持っている	187	38.2
持っていない	282	57.7
無回答	20	4.1
計	489	100.0

貯金に限らず、不動産で見ても、ブラジルで不動産を所有しているのは38.2%であり、「持っていない」という回答が57.7%と多くなっている。

3-4. 住居・社会関係

表18 住宅

	度数	%
会社の社宅・アパート	363	74.2
民間の賃貸住宅・アパート	46	9.4
公営住宅	57	11.7
所有するマンション、家	10	2.0
その他	4	0.8
無回答	9	1.8
計	489	100.0

住宅についてはほぼ3/4が会社の社宅・アパートであり、民間、公営の賃貸住宅はそれぞれ約1割程度である。これはA社の派遣先企業の特質といえる。

表19 結婚

	度数	%
ブラジルで結婚	151	30.9
日本で結婚	56	17.6
過去結婚、現在独身	59	12.1
まだ結婚していない	186	38.0
無回答	7	1.4
計	489	100.0

婚姻関係についてみると、「ブラジルで結婚」が30.9%、「日本で結婚」が17.6%と結婚している人が半数弱を占める。

これもA社で独身者を中心に派遣していることが影響している。その結果、「現在一人で暮らしている」は200名で約4割である。

家族・親族については、「同居している」、「国内に居

住」、「ブラジル居住」に分けてまとめた（表20）。全般的に、ブラジルに居住する家族が豊富である。

表20 家族（%）

	同居	国内別居	ブラジル居住
配偶者	32.5	5.1	15.3
子ども	13.5	6.3	24.7
きょうだい	5.7	34.8	68.1
実父	2.0	6.5	54.4
義父	0.6	1.6	23.7
実母	2.2	8.0	68.1
義母	0.4	2.0	31.5

配偶者と国内で別居している割合が5.1%、ブラジルで別居している割合が15.3%と合わせて2割を占めている。これもA社が単身での就労を重視している点が影響していると思われる。

もう一点注目されるのは、子どもである。実際に同居している割合が13.5%であるのに対して、国内での別居が6.3%と合わせて約2割程度である。そしてブラジルで別居している比率が約1/4の24.7%と上回っている。これらの点からすると、これまで議論されていたように、子どもの日本での居住が親の定住化をうながすという図式の再考が必要かもしれない。この点については次節で詳細に分析することにした。

では、生活上、困った時に誰を頼りにしているのか。この点については、「日本にいる家族」が36.6%で最も多く、次いで、「ブラジルにいる家族」、「日本にいる友人・知人」がどちらも1/4程度となっている。

表21 困ったときに頼りにする人・機関（複数回答）

	度数	%
日本にいる家族	179	36.6
ブラジルにいる家族	130	26.6
日本にいる友人・知人	125	25.6
ブラジルにいる友人・知人	9	1.8
日本人の友人・知人	15	3.1
日本人中心のボランティア団体	12	2.5
ブラジル人が中心の宗教団体	33	6.7
会社	20	4.1
日本の行政機関	72	14.7
その他	33	6.7

「日本人」との関係については、「日本人の友人・知人」3.1%、「日本人中心のボランティア団体」2.5%と低くなっている。

3-5. 日本語能力

日本語能力については、「話す・聞く」、「読む」、「書く」それぞれで「母語とする人と同程度」、「漢字を使って書ける」は1割に満たない。逆に「ほとんどできない」は、13.7%、18.4%、26.8%と日常的会話から「読み・書き」にいくにつれて高くなっている（表22）。

「話す・聞く」については、「日常生活に困らない程度にできる」、「母語とする人と同程度」合わせて約45%であり、半数近くが困らない程度の日本語能力を持っている。これまで、2009年1～2月にかけて、静岡県浜松市で実施されたブラジル人調査（ブラジル人が集まる場所での対面調査、回答者2773名）では、会話レベルで「まったくできない」が20.4%、「最低限」53.0%、

表22 日本語能力（%）

話す・聞く		読む		書く	
ほとんどできない	13.7	ほとんどできない	18.4	ほとんどできない	26.8
しばしば困ることがある	38.9	ひらがな、カタカナは読める	32.0	簡単な単語程度は書ける	37.0
日常生活に困らない程度できる	38.2	簡単な漢字程度	42.5	ひらがな、カタカナでは書ける	29.0
母語とする人と同程度	6.1	母語とする人と同程度	3.7	漢字を使って書ける	3.1
無回答	3.1	無回答	4.1	無回答	4.1

表23 ポルトガル語能力（%）

	話す・聞く	読む	書く
まったくできない	1.8	3.3	3.3
あまりできない	6.3	7.2	7.2
わりとできる	19.0	15.1	17.0
ほぼ完全にできる	70.6	71.8	68.7
無回答	2.3	2.7	3.9

表24 家族とのコミュニケーションの困難

	ポルトガル語		日本語	
	度数	%	度数	%
全くない	390	79.8	141	28.8
あまりない	34	7.0	54	11.0
ときどきある	27	5.5	116	23.7
よくある	7	1.4	91	18.6
無回答	31	6.3	87	17.8
計	489	100.0	489	100.0

「読み書き」について「まったくできない」37.8%となっている（がんばれ！ブラジル人会議編，2009：9）。調査時期、調査方法、ワーディング等の根本的な違いにより、単純な比較はできないが、A社と契約するブラジル人の日本語能力が相対的に高いものと考えられる。

ポルトガル語についても、「話す・聞く」、「読む」、「書く」すべてで「ほぼ完全にできる」が7割前後、「わりとできる」も含めると9割近くにのぼる（表23）。いずれについても「まったくできない」、「あまりできない」が合わせて約1割も存在する。日本生まれ、あるいは日本で教育を受けた若年層のポルトガル語能力の実態であり、少なくとも、今後日本での生活を選択するものと推測される。

家族とのコミュニケーションについては、ポルトガル語の場合はほとんどないが、日本語では、「ときどきある」23.7%、「よくある」18.6%と、合わせて4割にのぼっている（表24）。

表25 日本語を学ぶこと

	度数	%
学びたい	220	45.0
機会があれば学びたい	201	41.1
あまり学びたくない	31	6.3
学びたくない	12	2.5
無回答	15	5.1
計	489	100.0

日本語を学ぶことの意欲については、「学びたい」45.0%、「機会があれば学びたい」41.1%となっている。日本語能力については、調査対象がアルゼンチン人であり、対象者は異なるが、稲葉・樋口（2010：98）の調査では、「人的資本のうち日本の労働市場で有効活用されているのは、日本語能力にほぼ限定されている」点が指摘されている。この点からすれば、「日本語を学ぶこと」に対するニーズを考慮した取り組みが必要とされる。

4. 日本での居住志向

4-1. 滞在・帰国に関する意識

ブラジル、日本どちらに愛着を感じているのか。データで見る限り、ブラジルへの愛着の方が日本への愛着よりも「とてもある」が多くなっている。しかし、「とてもある」、「まあある」の合計は6割を超え、逆に愛着が「あまりない」、「ない」の合計は、ブラジル、日本のどちらも1割台にとどまる（表26）。

日本での滞在・帰国予定をみてみると、日本に永住するという意思表示を明確に示しているのは8.0%である。

表26 ブラジル・日本への愛着

	ブラジル		日本	
	度数	%	度数	%
とてもある	230	47.3	145	29.7
まあある	90	18.4	158	32.3
どちらともいえない	93	19.0	90	18.4
あまりない	35	7.2	36	7.4
ない	26	5.3	41	8.4
無回答	15	3.1	19	3.9
計	489	100.0	489	100.0

表27 日本での滞在・帰国予定

	度数	%
日本に永住予定	39	8.0
できるだけ日本に滞在、いずれは母国に帰国予定	157	32.1
1年以内に母国に帰国予定	67	13.7
3年以内に母国に帰国予定	77	15.8
5年以内に母国に帰国予定	32	6.5
帰国の予定が立たない	97	19.8
その他	8	1.6
無回答	12	2.5
計	489	100.0

最も多いのが「できるだけ日本に滞在し、いずれは母国に帰国したい」という層で、約1/3を占める。これに続くのが「帰国の予定が立たない」19.8%で、帰国を希望しつつもその時期を明確にできないことが数字からも明らかとなる（表27）。

日本での滞在の中でどのような意識の変容が見られるのか。来日当初と現在で何が変わったのか／変わらなかったのかを示したのが表28である。

表28 最も大切にしていた／していること

	仕事開始時		現在	
	度数	%	度数	%
母国の家族の生活	145	29.7	169	34.6
帰国後の自分の生活	266	54.4	196	40.1
その時点での日本での生活	30	6.1	55	11.3
今後の日本での生活	28	5.7	51	10.4
無回答	20	4.1	18	3.7
計	489	100.0	489	100.0

まず注目されるのが、「最も大切にしていたこと／していること」について、「母国の家族の生活」が29.7%から34.6%にやや増加しているのに対して、「帰国後の自分の生活」が54.4%から40.1%に大幅に減少していることが目につく。日本での生活についても、「その時点での日本での生活」が6.1%から11.3%に、「今後の日本

での生活が」5.7%から10.4%にそれぞれ微増しているが、合計すると、現時点では2割程度が日本での現在・今後の生活を重視するようになってきていることがわかる。

表29 生活の面倒を見てくれる家族・親族

	ブラジル		日本	
	度数	%	度数	%
いる	204	41.7	112	22.9
いない	271	55.4	363	74.2
無回答	14	2.9	14	2.9
計	489	100.0	489	100.0

家族・親族については、前節でブラジルに居住している方が圧倒的に多いことを見てきた。しかし、その内実を見てみると、自身の生活の面倒を見てくれる家族については、ブラジルで41.7%、日本では22.9%である。しかし、「ブラジルにいない」という回答が55.4%と半数以上存在していることに注意したい。

表30 ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族

	度数	%
いる	167	34.2
いない	309	63.2
無回答	13	2.7
計	489	100.0

さらに今後の動向を考える上で無視できないのは、「ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族」が「いる」という回答が34.2%と約1/3にとどまり、2/3近くの63.2%が「いない」としている点である。ブラジルへの帰国を希望する層が大半であるものの、ブラジルでの生活に関する保障という点では極めて厳しい条件となっていることが推測される。

表31 家族・親族の呼び寄せ

	度数	%
呼び寄せたい	126	25.8
どちらかと言えば呼び寄せたい	62	12.7
どちらかと言えば呼び寄せるつもりはない	44	9.0
呼び寄せるつもりはない	231	47.2
すでに全員日本にいる	16	3.3
無回答	10	2.0
計	489	100.0

家族・親族の呼び寄せについては、「どちらかと言えば呼び寄せるつもりはない」9.0%、「呼び寄せるつもりはない」47.2%と、合わせて半数を超える。しかし、逆に「どちらかと言えば呼び寄せたい」12.7%、「呼び寄

せたい」25.8%と、4割弱が家族・親族の呼び寄せを希望している。

表32 日本国籍取得、政治参加への希望

	日本国籍		二重国籍 (日本国籍)		国政参政権		地方参政権	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
希望する	129	26.9	224	45.8	158	32.3	156	31.9
希望しない	324	66.3	227	46.4	300	61.4	295	60.3
すでに取得	19	3.9	19	3.9	15	3.1	14	2.9
無回答	17	3.5	19	3.9	16	3.3	24	4.9

最後に、日本での生活を営む上で、権利として求める点を尋ねている。

まず、日本国籍については、「希望する」26.9%、「希望しない」66.3%と、「希望しない」が倍以上である。しかし、二重国籍が認められた場合に日本国籍の取得を希望するかという点については、「希望する」45.8%、「希望しない」46.4%と、ほぼ同数である。その意味で、母国との絆を維持し、トランスナショナルな定住化が進行する中で、社会保障・教育などの面で不利益が生じない重国籍の制度の提唱がなされている（小内編著, 2010: 182）が、ここで示したようにブラジル人の側のニーズもある点に注意したい。

その一方で、近年政治的問題として注目を集めている参政権であるが、「国政参政権」、「地方参政権」どちらも「希望する」が約3割、「希望しない」が約6割と倍近くになっている。

4-2. 日本での居住志向の規定要因に関する重回帰分析

では、日本での永住か、帰国、あるいはその揺れなど日本での居住志向はどのような要因により規定されるのだろうか。こうしたテーマについてまだまだまとまった研究成果はなく、部分的には、近藤（2011）で、永住資格、同居家族構成などに関する分析が行われているだけである。ここではこの問題に迫るため探索的に日本での居住志向を従属変数とした重回帰分析を行ってみたい。

従属変数は、表27にまとめた「日本での滞在・帰国予定」を改変し、「日本に永住予定」5、「帰国の予定が立たない」4、「できるだけ日本に滞在後帰国」3、「3～5年で帰国予定」2、「1年以内に帰国予定」1を割り振り、「日本での滞在志向尺度」としたい。

独立変数としては、属性として、「性別」、「年齢」、「永住資格」、「学歴」を採用する。生活面では「貯金」、「母国への仕送り」、「ブラジルでの不動産所有」、社会関係では「ブラジルで生活の面倒を見てくれる家族・親族」、「ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族」、「日本で生活の面倒を見てくれる家族・親族」、「日本で

表33 変数の説明

性別（女性）	女性1、男性0
年齢	年齢の回答通り
永住資格	「日本国籍・永住資格あり」1、「永住資格なし」0
学歴	「学校に通っていない」0、「小学校」1、「中学校」2、「高校中退」3、「高校卒業」4、「大学以上」5
貯金	「している」1、「していない」0
母国への仕送り	「している」1、「していない」0
ブラジルでの不動産	「持っている」1、「持っていない」0
ブラジルで面倒を見てくれる家族・親族	「あり」1、「なし」0
ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族	「あり」1、「なし」0
日本で面倒を見てくれる家族・親族	「あり」1、「なし」0
日本で子ども居住	「あり」1、「なし」0
日本語能力「話す・聞く」	「話す・聞く」の回答通り
ブラジルへの愛着	「とても愛着あり」5～「愛着なし」1
日本への愛着	「とても愛着あり」5～「愛着なし」2

の子ども居住」、日本語能力「話す・聞く」、意識レベルでは、「ブラジルへの愛着」、「日本への愛着」とする⁶⁾。

それぞれの変数の度数分布については前節までに示した通りだが、重回帰分析を行うにあたって以下の通り改変している（表33）。

以上の変数をもとに重回帰分析を行うが、その際、以下の点に着目したい。

第1に、日本での居住志向を規定する要因として強い効果を持つのは、属性、経済的資源、社会関係、意識のいずれであるかという点である。ここでは、「モデル1：属性のみ」、「モデル2：属性＋経済的資源」、「モデル3：属性＋経済的資源＋社会関係＋日本語能力」、「モデル4：属性＋経済的資源＋社会関係＋日本語能力＋意識」という4つのモデルの調整済み決定係数を比較することから、規定要因の大枠に関する分析を行いたい。

第2に、その中でも特に強い効果を持つ規定要因は何かを明らかにしたい。ここから、さらなる分析のための知見を獲得することを目指している。

重回帰分析の結果は表34の通りである⁷⁾。

まず、「モデル1：属性のみ」、「モデル2：属性＋経済的資源」、「モデル3：属性＋経済的資源＋社会関係＋日本語能力」、「モデル4：属性＋経済的資源＋社会関係＋日本語能力＋意識」という4つのモデルの調整済み決定係数を比較してみると、属性のみのモデル1は有意なモデルとなっていないのに対して、貯金などの経済的資源を加えたモデル2では説明力が一気に高くなるのがわかる。モデル2→モデル3ではやや調整済み決定係数の値が高くなるが、モデル3→モデル4では.105→.218と説明力が倍近くになっている。これらを総合すると、

日本での居住志向を規定する要因としては、属性はあまり説明力を持たず、経済的資源、および愛着などの意識変数が高い効果を持っていることが明らかとなる。

次に、どの要因が説明力を持つのか、個別にみていくと、属性については「永住資格」を持っている方が日本での居住志向を高めている。「貯金」、「母国への仕送り」、「ブラジルでの不動産」という経済的資源についてはすべてが効果を持っている。つまり、「貯金」があり、「母国への仕送り」をし、「ブラジルでの不動産」を所有していることが日本での居住ではなくブラジルへの帰国志向を高めている。また、社会関係としては、ブラジルでの家族・親族や日本での家族・親族関係はあまり効果を持たず、「日本で子ども居住」が日本での居住志向を高めている。意識変数は当然のことではあるが、日本での居住志向は「ブラジルへの愛着」が高いほど弱まり、「日本への愛着」が高いほど強くなっている。

以上、日本での居住を規定する要因についての分析を行ってきた。A社と契約されているブラジル人労働者というサンプルの特性の問題や、他の調査データとの比較検討ができていないため十分ではないが、「貯金」、「母国への仕送り」、「ブラジルでの不動産」など経済的資源が重要な規定要因となっている点など、いくつか注目すべき知見が得られたと思われる。今後は、今回の分析結果を踏まえ、長浜調査、および同時期に実施された自治体調査との比較を行うことで、分析の精度をさらに高めていくことにしたい。

表34 日本居住志向の重回帰分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
性別（女性）	-.007	-.055	-.065	-.044
年齢	-.022	-.019	-.054	-.063
永住資格	.133**	.130*	.089#	.095#
学歴	.003	-.036	-.039	.053
貯金		-.159**	-.145**	-.174**
母国への仕送り		-.132*	-.118*	-.023
ブラジルでの不動産		-.172**	-.172**	-.140**
ブラジルで面倒を見てくれる家族・親族			.008	-.021
ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族			-.088	-.059
日本で面倒を見てくれる家族・親族			.064	.081
日本での子ども居住			.132*	.094#
日本語能力「話す・聞く」			.079	.015
ブラジルへの愛着				-.179**
日本への愛着				.312**
F値	1.771n.s.	6.080**	4.618**	8.318**
調整済み決定係数	.007	.086	.105	.218

注：数値は標準化偏回帰係数 #p<.10 *p<.05 **p<.01

注

- 1) 本稿は1.、2-2.を山本が、3.、4.を松宮が、2-1.は山本と松宮がそれぞれ分担執筆した上で、相互に調整を行っている。
- 2) こうした地域ベースの研究については、松宮（2011a）、山口（2011）でその意義と展開の可能性について議論している。
- 3) さしあたり、2010年3～4月に実施された滋賀県長浜市でのブラジル人調査（近藤，2011）との比較を行っている（松宮，2011b）。
- 4) 本調査項目では無回答が2割以上あったため、「変化があった」という回答のみを記載している。
- 5) 貯金については、ドル、レアルでの貯金についても尋ねているが、回答が少なかったため、ここでは円による貯金のみで記載している。
- 6) なお、従属変数と独立変数の単相関は次の通りである（ピアソンの相関係数、*p<.05, **p<.01）。「性別」.022、「年齢」.045、「永住資格」.116*、「学歴」.019、「貯金」-.145**、「母国への仕送り」-.117*、「ブラジルでの不動産所有」-.154**、「日本で生活の面倒を見てくれる家族・親族」.037、「ブラジルで生活の面倒を見てくれる家族・親族」-.080、「ブラジルで働き口を紹介してくれる家族・親族」-.071、「日本での子ども居住」.143**、日本語能力「話す・聞く」.130**、「ブラジルへの愛着」-.237**、「日本への愛着」.388**。
- 7) 多数の独立変数を投入するため多重共線性の危険性があるが、独立変数間の相関を確認したところ顕著に高い相関関係は認められなかった。

文献

稲葉奈々子・樋口直人，2010，『日系人労働者は非正規就労からいかにして脱出できるのか』（財）全国勤労者福祉・共済振興協会。
 小内透・浅川和幸・都築くるみ，2010，「在日ブラジル人の生活の諸相」小内透編著『在日ブラジル人の労働と生活』御茶の水書房。
 小内透編著，2010，『ブラジルにおけるデカセギの影響』御茶の水

書房。

梶田孝道・丹野清人・樋口直人，2005，『顔の見えない定住化』名古屋大学出版会。
 がんばれ！ブラジル人会議編，2009，『浜松市 経済状況の悪化におけるブラジル人実態調査集計結果』。
 近藤敏夫，2011，「日系ブラジル人の家族構成と定住化傾向」『JICA 横浜海外移住資料館研究紀要』5：45-59。
 丹野清人，2009a，「官製雇用不安と外国人労働者」『寄せ場』22：36-52。
 丹野清人，2009b，「外国人労働者問題の根源はどこにあるのか」『日本労働研究雑誌』587：27-35。
 樋口直人，2010，「経済危機と在日ブラジル人」『大原社会問題研究所雑誌』622：50-66。
 樋口直人，2011，「経済危機後の南米人人口の推移」『徳島大学社会科学研究所』24：139-157。
 松宮朝，2010，「経済不況下におけるブラジル人コミュニティの可能性」『社会福祉研究』12：33-40。
 松宮朝，2011a，「ニューカマー外国籍住民集住地域の比較研究に向けて」『愛知県立大学教育福祉学部論集』59：19-26。
 松宮朝，2011b，「リーマンショック後の経済不況下におけるブラジル人④」第4回東海社会学会大会報告レジュメ。
 美濃加茂市，2009 『美濃加茂市在住外国人住民緊急実態調査報告書』。
 山口博史，2011，「ニューカマー日系南米人支援活動に関する地域間比較枠組み形成に向けて」『東海社会学会年報』3：43-54。
 山本かほり，2011，「『多文化共生施策』が見落としてきたもの」『JICA 横浜海外移住資料館研究紀要』5：33-44。
 山本かほり・松宮朝，2009a，「西尾市県営住宅外国人住民調査中間報告」『共生の文化研究』2：30-38。
 山本かほり・松宮朝，2009b，「2008年度西尾市外国人住民調査報告」『社会福祉研究』11：43-55。

付記

本研究は、JICA 横浜・海外移住資料館研究費助成「経済不況下における日系ブラジル人の実態および社会統合への課題」(研究代表：山本かほり)、2007～2010「ブラジル人住民の地域参加と地域統合をめぐる社会学的研究」((2007-2010科学研究費補助金基盤研究(C))、2009～2011年度科学研究費補助金若手研究(B)「人

口減少社会における『フレキシブルな労働力』に関する実証的研究」(研究代表：松宮朝)の研究成果の一部である。

謝辞

調査にご協力いただいたA社のみなさまには大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。

資料編 A社調査自由回答

・悪いことと良いことがある。初めて日本に来た時は言葉と、文化で生活に困っていた。しかし、日本に来て独立ができて、自分の人生もよくなった。今は、思ってもいなかったことができるようになった。ヒラガナ、かたかな、漢字が書ける。クモンをやっていたため、日本人ともしゃべれるようになった。たくさんがんばったら、できるようになると信じています。ありがとう!!

・日本でたくさんのことを覚えました。一人暮らし、公共料金、家賃支払い。日本の社会がもっとブラジル人を受け入れてほしい。あとは、仕事の状況がよくなってほしい。

・日本は大好きだけど、はじめて来た時はまだ仕事をする年齢ではなかった。それで、親はブラジル人学校に入れて、勉強させた。そのときは仕事があり、生活はよかった。最近、仕事をやりはじめたので、いいか悪いかはまだ言えない。日本人は大好き。悪い人には見えない。生活するには困るので、日本語を覚えたい。順調にいったら、ちゃんと勉強したい。それから私の人生はよくなると思う。ブラジルと日本は、両方好きだけど、今のところはブラジルの方が好き。それは言葉がわかるから。

・不景気になってから、みんな景気の悪化を感じたが、景気が悪いのはだれのせいでもない。人間は、生活の中でたくさん覚える。だから、何かを学ぶために、もう一度日本に来たい。お金をためて幸せになることを考えているが、それができなかつたら、人生の勉強をたくさんさせてもらったと考えている。日本人はまだ外国人を受け入れていない。

・たまに日本の生活が絶望的に感じられた。そして、日本の社会は外国人を受け入れていない。

・人づきあいをおぼえ、給料は汗をかいて得たものなので、大事に使うことを覚えた。あと、言葉が通じない国で生活する方法を学んだ。

・最初の三ヶ月は毎日ブラジルに帰りたと思っていた。そのときは何もしゃべれなかつたので何も買えなかつた。しかし、一年過ぎた頃からよくなってきた。今は日本が大好き。ブラジルにいる家族たちは寂しがるが、帰りたとは思わない。日本では、友だちがいっぱいできて、会社の日本人とも友だちになって、上司とも友だちになって、会社の中でもやりたいことをやっていて、誰も何も言わない。しかし、仕事はちゃんとやって

いる。社員たちと上司とは普通にしゃべっている。ブラジルの会社での人づきあいは、ここと一緒じゃないと思う。

・会社で仲良くなったのは、ブラジル人よりも日本人だった。まだ日本で生活できることに感謝したい。

・日本の文化を覚えて、日本人のように生きたい。

・日本に来てから今までは、みんな親切にしてくれた。その間に日本は安全で、貯金ができた。日本人は親切で、言葉がわからなくても、親切にしてくれる。悪いことは何もない。ただ、感謝したい。

・日本で暮らすのが好きでした。日本人たちは親切で教育水準が高く、町はきれいで安全。日本語を覚えていたら、もっと日本の社会に入ることができたと思う。それが難しいのが残念だ。

・日本に来て文化と食べ物と言葉に困難を感じた。今はあまり感じない。しかし、子どもたちと妻は寂しがっている。日本の人は、少し冷たくて心を開かない。

・日本は生活するにはとてもいい国です。お金を稼ぐにも、安全の面でも。しかし、今までは、外国人という差別があります。公共施設でも、毎日の生活でも。

・日本に来た時には、日本語と日本の文化に困難を感じた。今は、日本の社会は、教育もしっかりしている。

・ブラジル人への差別がなくなるように、日本人も同じようにしてほしい。

・日本に来るのは大きな挑戦だった。たくさん覚えることができてよかった。日本とブラジルの文化はとても違う。日本に来て後悔はしていない。しかし、ブラジルに帰って生活をしたい。

・日本で生活する方法を覚えたい。ブラジルに戻るつもりはない。日本でずっと暮らす可能性がある。

・日本の生活はブラジルよりもいい。通訳がいるので、日本語を勉強しなくてもいいという状況はよくないと思う。日本人の血が流れているが、文化が違って、たまに偏見がある。人によっては、私たちが悪く見えるようだ。しかし、人によっては尊敬される。ブラジル人と日本人はもっと一緒に生活をするのもっといい状況が生まれる。このアンケートでよくなるようにしてほしい。

・治安はいい。税金が高い。会社や公共施設で日本人は差別する。社会保険も高い。派遣会社によっては、奴隷のように使うところもあるようだ。健康面についてもっと配慮して欲しい。日本は生活するにはいい国。高速道

路の料金が高い。

・差別をしないでほしい。ブラジル人の一部に悪い人がいるだけで、すべて悪いと思わないでほしい。今まで税金はきちんと払ってきました。しかし、ブラジル人のイメージが悪いので、ローンを組んでくれないことがある。

・日本は秩序がある国。だから、困難はなかった。しかし、たまには差別を感じる。それでも、日本人とは職場で仲良くできる。

・日本人と結婚しているので、ブラジルには帰らない。日本は生活するにはいい国。日本人は、よく教育を受けている。ブラジルで暮らすのは、自分の家族にとっては大変。

・コミュニケーションでは問題がある。

・派遣会社はもう少しよくしてほしい。

・会社の社員にももっと元気づけてほしい。

・社会は違うが、慣れてきた。

・早くお金を稼ぐために日本に来た。日本は門を開いてくれた。日本人の文化と生活を見てブラジルのことを考える。ここにいると、ブラジルの治安や、貧困を忘れる。ブラジルは自分が生まれた国で、一番の宝物はブラジルにいる家族。できればすぐにブラジルに帰りたい。

・日本が戦後成長したのがわかる。日本人は強く、勤勉で、会社にも尽くす。そして、日本人も会社も社会も成長する。日本は不景気になっても簡単に回復する。

・日本は安全で暮らすにはいいところ。しかし、不景気になってから変わった。いい仕事を探すのは難しく、時給も低くなった。

・日本に来て、今まではすべて新しく経験することだった。ここでの生活がとても好きになった。日本はきちんとしていて労働報酬も公正だ。もし、家族を連れてくることができたら、ずっとここに住みたい。日本の暮らしについて何も言うことはない。

・家族を置いてきたので寂しい。しかし、ブラジル人を受け入れてくれた日本人には感謝している。

・治安の良さはブラジルではないこと。ブラジル人と日本人を統合したら、日本の経済はもっと成長する。社会にもいい影響が出る。

・日本ではよりよい生活ができた。

・仕事では夢を実現できる。よりよい生活ができる。

・日本はたくさんの機会をくれた。ブラジルでは買えなかったものを買うことができた。

・はじめは大変だった。しかし、すごく長く日本で暮らしているので、慣れてきた。日本の文化と社会は尊敬している。言葉が日本人とブラジル人の壁となっていた。

日本語を学ぶ時間と場所がほしい。日本人とブラジル人の暮らしがよくなったらいいと思っている。

・日本人はたくさん残業をして、仕事だけに向いている。ブラジル人はそれに驚く。日本社会は浪費する社会。もらうものをすべて使ってしまう。しかし、子どもたちの教育に投資している。日本はアメリカの属国。アメリカがいい時は、日本もいい。今のところはアメリカが悪いので日本も悪い。日本は技術力もあるので、もっといい国になることができると思う。日本は技術力があるのに、それを追求できていない。

・日本とアメリカは経済的に一流、ブラジル、ペルーは三流。ブラジル人にはまだ差があります。

・日本は平和で安全な国。以前はとてもよかったが、景気が悪くなってすべてが変わった。今は明日のこともわからない。

・すごくよくしてくれた。良い生活ができた。日本が好きだったので、また、戻ってきた。

・日本の社会は安全、正直、誠実。しつけはとてもよくされている。生活もすごくいい。

・日本人はとてもよく教育されている。治安もよく、それがとてもいい。夜、道があるくのも怖くない。運転している時も信号を守る。

・安全な国だと感じています。泥棒の心配をしなくてもいい。日本は子どもを育てるにはいい国。不景気になってから、仕事とお金のことを心配した。しかし、希望は失っていない。偏見をなくすために、ブラジル人がやっているいいことをもっと日本人に知らせたい。テレビでブラジル人の犯罪が報道されるが、それはブラジル人の一部がやっていること。仕事をする人がたくさんいるので、日本の社会で生きたいという人はたくさんいる。

・まだ日本で仕事を続けたい。できれば家族も連れてきたい。

・日本は国としては問題ない。しかし、仕事の関係では、外国人にもっと配慮して欲しい。私たちは日本の制度、ルールがわからないので、派遣会社は、私たちがうまく利用している。明細書を見るとたくさん給与から引かれている。そして休みの時に仕事をしても手当がつかない。それはブラジル人を怒らせる。ブラジルであまりいい生活をしていない人たちが日本に来て、このような問題に会う。派遣会社に対して、何かしなければならぬ。仕事した分を正当に評価し給与してほしい。派遣会社ではなく、働いている会社が私たちに直接支払う制度にしなければならない。それをしないと日本人とブラジル人は仲良くできない。

・日本で暮らすことはとてもいい。日本で仕事をしてお

金でちゃんとした生活ができる。ブラジルだったらできなかった。ブラジルの給料はとても少ない。正社員じゃないので、仕事があればいいけど、なくなるとすぐにくびになる。2008年の不景気で、外国人に仕事がなくなり日本で暮らせないと思い、怖くなった。日本は大好きなので、ずっと住むことができれば幸せだ。日本に受け入れられたら、もっと幸せになれる。両親、祖父母も日本人なので、私はブラジル人というより、日本人の心を持っているからだ。しかし、違う国で生まれたので、少し日本人から偏見がある。

- ・いつもみんな親切にしてくれている。日本人と仲良くしたいけど、言葉がわからないので難しい。
- ・生活の仕方を学ぶ上では日本はいい国だった。
- ・日本語がしゃべれなかったのが、はじめは少し困難を感じたが、今はたくさん日本語を覚えて、日本が好きになった。しかし、ときどきブラジルに戻りたいと思う。なぜならブラジルに家族がいるからだ。
- ・今仕事をしている会社にもものすごく感謝しています。仕事の機会を与えてくれて、私とブラジルにいる家族の生活を支えてくれたからです。
- ・今まではすごくよかった。不景気が怖い。
- ・最初にもっと日本語を覚えて、また日本で生活できるように仕事をして、くびにならないように、日本人と仲良くしたい。
- ・まだ来てから二ヶ月。そこでの生活にまだ慣れていない。日本のことをもっと知りたい。授業料免除で料理の教育、日本語の教育を受けたい。
- ・大きい会社はブラジル人を正社員として受け入れない。だから、日本で家を買ったりすることができない。会社でも、日本人に対して文句を言うことができない。文句を言ったらすぐくびになる。
- ・自分はブラジルに帰るかどうかわからない。ブラジル人の中で100%日本語が分かる人はあまりいない。勉強した人でも、日本人が言っていることで分からないことがたくさんある。国は一流でも、日本人はまだ三流。日本人は冷たい。私はブラジルの方がいい。このアンケートの中で言いたいことを書いたので感謝したい。
- ・ここで仕事をして、お金をもらって、親たちに送り、いい生活ができていますので、ありがたい。このように稼いだお金を使っていることを日本人に知って欲しい。派遣会社が、わたしたちに敬意を持って接してくれたら、国はもっとよくなる。ブラジル人は仕事をしないとイケないし、会社もわたしたちの仕事を必要としている。
- ・最初は言葉と文化に困難を感じた。生活のリズムと仕事のリズムが合わずに大変だった。派遣会社が寮に居住

させることに驚いた。日本人の暮らしにも戸惑った。しかし、次第に慣れてきて、よくなってきた。何度もブラジルと日本を往復したが、ずっとブラジルに住むことはできなかった。なぜならブラジルも不景気が続いているからだ。日本の状況は安定していたけど、今は変動が激しい。日本はたくさんの国からたくさん輸入しているの、安定することが困難になってきた。今は、たくさんの企業が海外に進出しているが、それはよくない。それでは日本への「デカセギ」がなくなってしまう。日本の経済が回復しないのは、メイドインジャパンのよさがなくなってしまうからだ。メイドインジャパンが落ちて、中国、韓国が上に行ってしまう。給料も日本に来た時からものすごく下がった。だから、日本がいい方向に行くようには見えない。日本は停滞しているが、よくなってほしいと強く思っている。

- ・日本は他の世界と同様、社会において外国人への差別がある。それでも、いい生活ができる給与があった。この差別する人は、ブラジル人をテレビだけで知った人だ。私たちをよく知らないで、日本から出て行けと言う。一緒に仕事をしている日本人たちは私たちを知って、私たちの文化と生き方を受け入れてくれた。
- ・日本の生活はとても便利。どこでも食材がそろっている。しかし、言葉の面では困っている。あとは、日本とブラジルの文化が違って、仲良くできない。
- ・日本にきて最初のうちはよかったが、日本の文化、人もあまり分かっておらず、日本人は外国人に対してもっと優しくしてくれると思っていた。しかし、結局労働力としてしか見てくれていないように感じた。日本人は人への愛情をなくしている。20年ここに住んでいても、日本人の友だちは一人もいない。
- ・日本では、家族を食べさせることができました。
- ・日本に来てすぐは、よそ者のような気がしていたが、少しずつ馴染んできました。たくさんの人と知り合い、日本人の友だちもできました。外国人を差別するのは日本だけのこと。日本人の差別で、外国人は、日本に来た目的を考えます。そして、仕事をしっかりしようと思えます。日本に来る機会があって、日本人のご先祖様に感謝している。
- ・日本は人種、肌の色、年齢、性別に関係なく仕事をくれます。また、日本では暴力、殺人、暴動がなくとてもよい。日本の政府は、自分の地域、住民を大切にします。道路や公園もとてもきれいにしている。仕事をする人は、みんないい生活と貯金ができる。日本人とブラジル人の関係がもっとあった方がいいと思います。20年日本に住んでいますが、その間、いい生活ができて幸せ

になる機会があつてありがたい。

・ビザが合法の人でも、日本の職場では、不景気になったら、その意味がなくなってしまう。仕事があつたときに、ブラジル人はやっている仕事を大切にせず、もっといい条件があれば、そちらに行っていた。それは、新しく来たブラジル人にとっていいことではなかった。

・日本では、みんなすごく仕事をする。もっと仕事をする時間を少なくして、給料を上げて、その時間を勉強や家族のために使いたかった。ブラジル人同士、あまり仲良くできない。もっと、よくなるように、期待しています。

・ブラジル人が日本に来てから日本はすごく変わった。ブラジル人が少ない時は、日本人はよく話しかけてくれていた。デカセギが始まってから、ブラジル人が悪いことをした時に、全てのブラジル人が悪いとみなして、日本人の人種に対する意識が変わってきたと思う。ブラジル人が少ない時には、日本人がブラジルの文化をもっと知りたいと思っていたが、現在は、日本人はブラジル人を差別している。差別が始まってから、ブラジル人が日本の文化を知りたくても、日本人と仲良くできないので、覚えられない。こうした状況を変えるには、私たちの意識ではなく、日本人の意識を変えるべきだと思う。

・日本でずっと暮らしたいが、安定した仕事がないとその希望がかなわない。

・私の力だけで生きられる。まだ独身だけど、日本で結婚して家族を作りたい。

・仕事がないせいで、今は日本で暮らすのがとても難しくなってきた。日本の経済がもっとよくなるように期待している。

・日本に来た時は、私と妻は、全てのことが新鮮で、生活と仕事もよかった。3年間で、たくさんのお話を聞いた。ゴミの分別や、車体の組み立てを覚え、人間関係や、子どもやお年寄りを大切にすること、子どもたちの集団登校、自転車の通学、高齢者が自転車で買い物に行くことなどはブラジルではあまりない。それらは税金によってできるのだと思う。日本では夜、安心して出かけられます。妻はブラジルで看護師だったが、日本では会社員をしていた。自分がくびになったとき、妻が仕事をしていた。16歳の子どもがブラジルにいて、お金を送らないといけなかったので、3年間で稼いだお金を貯蓄することはできなかった。日本と日本人に感謝したい。ここでは、わたしたちは外国人なので、いつも妻に日本の文化を大切にするように言っています。

・たくさん貯金をして、ブラジルで家を購入しました。日本で今稼いでいるのは、私の年金だと思っている。自

分の気持ちはいつもブラジルにある。だから、他のブラジル人も早く稼いで、早くブラジルに戻るべきだと思う。日本の生活がずっと続くわけがないので。

・文化の違いで、日本に来て最初の頃はとても困難を感じた。しかし、今は大丈夫です。全てではないが、ブラジル人のことを不安に思う日本人もいる。それは普通のことだと思う。

・日本で暮らしたことはとてもよかったです。日本が大好きになったが、会社の仕事はつらかった。日本人の暮らしはとても楽しそうに見える。自営業をして、そこで稼いで、家族全員一緒に日本で生活したいです。ブラジルには何度も遊びにいき、逆に、日本を知らない親戚も連れて来たい。

・スポーツができる施設が欲しい。仕事だけになってストレスがたまり、休み時間もあまりない。職場と家の往復になっている。友だちを誘ってサッカーをしたいが場所がない。

・日本での暮らしはすごくよいが、ブラジルに家族がいるので、日本に住みたくはない。仕事は好きで、生活は便利で、財布にいつもお金があるのがいい。ブラジル人にもっと仕事があるように、そして日本人とブラジル人がもっと仲良くできるように、そして、ブラジル人が日本人にあまり迷惑をかけないようにと思っています。

・日本での暮らしはとてもいいが、言葉がわからないのが不便です。

・ここでの生活はとてもいい。以前は文化や食べ物など生活習慣が違うので日本社会との繋がりには難しかったが、長く生活することでよくなった。

・日本で仕事ができることはありがたいと思っています。ここで、自分の家を買うお金を稼ぎたい。日本と日本の文化が好きです。

・日本で生活をしている間に、日本人とブラジル人は同じ人間だとわかりました。楽しい時、悲しい時は一緒です。日本人からの差別はあるが、全ての日本人が差別をするわけではない。日系人に対しても差別はあります。ブラジル人と日本人の文化の違いを認識し、日本人の文化を大切にしたら、もっと仲良くできると思います。肌の色と人種、性別、宗教に関係なく仲良くできるように。

・寂しい気持ちになり、遠くにいる人が大切だと気づきました。日本にはいたくっているわけではなく、仕事のためにいます。親や祖父母や兄弟に会いたくて、2年間毎日泣いています。それでも、ここでは、たくさんのお話を学びました。ここでの経験は、私の人生にとって有意義だったと思います。日本は、ブラジルよりもよい習慣

がありますが、ブラジルの方がいいこともあります。それらを比較すると、ブラジルの方がいいと感じています。ブラジルの牧場はとてなつかしく、家族も寂しがつている。それでも、強くなって、自分の目標を達成し、親に自分の力を見せたいと思います。

・日本ではすごくいい生活をしています。教育水準が高く、誠実な人たちを崇拝しています。日本は生活するにはとてもよい国です。

・日本の暮らしには満足しています。日本人は、よく受け入れてくれて、安心して生活できます。日本で多くのことを学びました。日本がもっとよくなるように期待しています。

・日本での生活が好きです。治安と仕事の面で日本とブラジルの生活はとて異なっています。ブラジル人も、日本の文化や日本での生活のルールを少しずつ覚えてきていると思います。

・ブラジルよりいい生活ができる。

・日本社会での差別がもっと少なくなるように。

・ブラジルよりも日本は治安がよい。

・とても孤独です。

・日本では生活ルールが厳しいので、安心して生きていけません。しかし、ここで生活するには、経済の基盤が乏しいので厳しいです。

・外国人に対する差別はずっと続きます。外国人が好きな人はいません。

・日本は好きですが、偏見が沢山あります。ブラジル人だから禁止されることや、ブラジル人だから、これをやれとか、ブラジル人のせいでこういうことが起きたとか、いつも聞かれます。それ以外に、生活するには、安心で安全で、生活必需品を買うことができます。

・今のところは日本人に感謝しています。日本人のルールをきちんと守っています。偏見はあるが、それも仕方がない。それは日本とブラジルの文化の違い、コミュニケーションが困難だからです。日本の社会はもう少しよくなると思います。日本のことを悪く言うブラジル人は、日本の文化をよく知らない人です。

・ブラジルの家族と友だちは寂しがつているが、ここでの生活が好きです。観光地もとても好きです。日本は安心した生活ができる国であり続けて欲しい。

・日本では安心と、便利さがあるが、ブラジルの家族に会えず寂しい。

・日本での生活はとてよく、安全な生活をよく感じている。仕事したい人にはいつも仕事があり、毎日の生活がきちんと送れる。私が日本人だったら、日本をかけたえのないものと思うでしょう。私の夢は、ブラジルがい

つか日本のようになることです。

・日本は、私たちの人生を変えるにはいい国です。

・2008年以降、父が失業しました。私は大学入学の一步前でした。でも生活のために高校でやっていたバイトを続けて、夏(2009年)に今の会社に入りました。本当は、大学に行きたいです。私は、学校などで、外国人の子供達にもっと情報が届くようになればいいと思います。前もって準備などをしていれば、今は大学2年生でした!! 日本で暮らすのは好きです。日本で育っている子どもが増えたので、教育の面をもっと考えてほしいです。(日本語で自著)

・やっぱり日本に来て、大変な事はいっぱい経験しました。しかし来てよかったなあと思っています。あと、今派遣社員として会社で働いているけれど、いずれは大学に入って自分の好きな職業に就きたいと思っています。(日本語で自著)

・透明性、誠実さ、協力と規律正しさを感じました。希望は、日本社会に対して我々日系人は類似性を無くしてはならないと思います。

・初めて来日した時からとて親切にしてもらい、日本が好きです。最近は前よりも日本人との付き合いが深くなりました。公文で日本語の能力を高めるために、勉強を始めました。私が日本に居られること、こちらへの扉を開けてくれた祖先に対して、とて感謝しております。日系三世であることを誇りに思います。アンケート、ありがとうございました。

・国を軽蔑します。

・外国人であっても、組織化と敬意に感心します。市役所や銀行などで、皆さんがとて親切ですから、困ったりしたことはありません。ところが、私には日本人の友達は一人もいません。今まで日本社会と関わり合おうと思ったことがないので、友達がいないのは私のせいです。ほとんどのブラジル人は同じ問題を抱えており、ブラジル人社会の中で生活を送っています。日本人のことを理解し辛くなりますので、悪いことだと思います。

・礼儀正しい、もてなしのよい社会だと感じました。

・日本で暮らすのがとて好きです。日本人の友達、そしてその家族も知っています。いい人も悪い人もいて、それはどこでも同じです。日本では、ほとんどがいい人で、皆さんはとて礼儀正しいです。私は特に日本の治安がいいことと、道や公共の場がきれいなところが好きです。両親はもう亡くなりましたが、父は日本人で母は日系人でしたから、日本スタイルのとてもいい教育を受けました。そのお陰で、日本で暮らしていて場違いだなんて感じていません。

・日本で良い将来の可能性があって欲しいです。そして、こちらで働いている外国人に対しての差別を日本人に減らしてもらいたい。

・最近の仕事の保証はないけど、安定していると思います。

・日本で暮らすことは孤独で、時間が過ぎるにつれ、ストレスがたまる決まり切った仕事をし続けるだけです。ひらがな、カタカナと漢字は少し読めますが、ほとんど会話は出来ず、話しかけられてもあまり理解できないので、社会に適応することがとても難しいです。勉強をしようとしたのですが、仕事とその疲れに負けてしまい、やる気を無くしてしまいました。友達や彼女もいないので、面白くないです。一人で覚えようとしたけど、根気がないです。

・ブラジルの文化をもっと理解してもらいたいです。

・日本は良く暮らせる国です。文化もいい。暴力について心配もなく、子供たちはとてもよくしてもらっています。独特で冷たい社会ですが、今はもう気にしていません。家族が良い生活が出来ればそれで満足。気にしないようになりました。

・言葉や文化が違うので、共同生活は難しく、社会に入り込むのもとても難しく感じます。

・発達した文化は素晴らしく、感心します。今まで身につけることがなかった、沢山のことを学びました。

・幼いころから両親の故郷へ行ってみたいと、夢を抱いていました。日本での生活はほぼ20年。最初は経済的な問題を抱えていましたが、今は日本がとても好きです。日本社会や日本人と活発的に共同生活をし、分かち合っていきたいと思います。

・日本社会に歓迎され、日常生活に問題はありません。

・日本で暮らせたことが、人生の中で、一番良かったです。ところが、年を取ってきたせいなのか、社会も国も変わった気がします。何度も不況に遭った私は冷たくなって気付かなくなったかも知れませんが、何だか日本人が外国人に対してよそよそしくなったような感じがします。

・年金をもらう頃について不安です。我々ブラジル人は日本人と同じレベルで働いています。働いた分の税金も社会保険も支払い、日本人より働いているのに、年金をもらう権利がないなんてとんでもないです。ブラジルの年金は不安定で信用出来ません。ブラジル人のために年金問題を注目してもらいたいです。どうもありがとうございました。

・日本人は冷たい感じがします。日本人の元彼女もそうで、本当の気持ちが読み取れません。東京、静岡と島根

県では差別を感じます。佐賀県と福岡県では差別はないです。他に、誠実さと安全を感じましたし、お店などで良くしてもらいました。警察と消防は理論ばかりで、実際には効果的じゃないです。殺人事件を解決するには優秀だが、「今」を解決してもらうにはダメです。ありがとうございました。

・来日した頃、進化した国に着いたと思いましたが、不幸なことに、機具は良くても、医学は遅れています。都会から離れている場所の法律、安全、そして生活品質はもちろん、素晴らしいです。日本の電化製品の質がいいということは元々知っていましたが、国内用の製品の耐久性と品質がいいことに驚きました。日本社会はパチンコやゲーム（ヤクザ）に結構負けていると思います。

・日の出の国では、ルールを守るからこそ全てが動いていて、何もかも必ず成功させなきゃいけないという感じですが、間違っている、成功させなきゃいけない。社会では人々が朗らかで、楽しく生きようとしています。先進国の特徴として、冷たい人々です。日本の文化を尊敬して私が合わせていかないと、日本は私に合わせてくれないとこちらに来て初めて分かりました。

・明日、何が起るか分からないので、過ぎたことはよくよせず、信念と希望を持ちつつ、神様を信じながら将来のことを考えなければいけません。私たちは自分の意思でこちらで暮らすことを決めており、家族のためにも一番いい方向へ進むべきです。

・別の文化ですから、再教育を受けることになります。私にとっては、日本人と生活ができたことから、人間を尊敬し、成長したと感じました。大きな変化でした。将来へ向かうようになり、正しい道を進んでいくべきだと分かりました。希望としては、日本社会にもっと色々なことを教えてもらい、知識を高めて、日本人に成っていきたいと思います。

・老人を大事にする文化を持った国で暮らせて、嬉しいです。新しい文化を身につけることができ、素敵で安全な場所ですので、色々な面で楽しく過ごせる国だと思います。

・政治機関は効果的で、安全な場所に温かく迎えてもらったので、私は日本が大好きで、いつも来てしまいます。私は故郷のように日本が大好きですが、但し、病院や他の場所で差別や人種偏見を受けるとガッカリします。外国人だからそんな目に遭ってしまいますが、そんな時だけ場違いだと感じてしまいます。

・日本は暮らしやすいところです。安心して暮らせます。料理もおいしいです。自然がとてもきれいです。世界中の人がみんな日本人みたいな暮らしができたなら、とても

幸せになるだろうと思います。(日本語で自著)

・日本では生活品質が良いことと、福祉と安全を感じました。この国の文化や芸術、料理が好きで、気楽に感じます。日本の歌やドラマは楽しいです。

・初めて日本に来た時から日本国民は私を温かく迎えてくれて、仕事上やプライベートでも一切問題なかったです。日本で暮らせるのがとても幸せだと、昔も今も、感じています。

・日本で暮らしていることから、この国の風習に対応していくことを覚えています。ゴミ分別の大切さ、公共の場での対応、歩行者に対するドライバーの気持ちなどを覚えました。コミュニケーションを取って、自分の意思を伝えるのが難しいです。場所によっては、日本人が我々外国人に対して不安な様子ですが、他方、うまく会話が出来ないと気付かれると、一生懸命説明をしようとしてくれる方もいます。いつかは社会に認められ、ごく少ないブラジル人が残した悪い印象が消えて欲しいと思います。私は異なる文化を覚えて、ブラジルは原住民やアマゾンとサッカーばかりじゃないのだと、いつか日本人に知ってもらいたいです。

・日本では、安心して街中を歩けますし、治安のいい所です。安全で、自由にできて、チャンスのある国です。日本社会についての希望は、日本語を習ってもっとふれあい、いい生活を送ることです。

・日本は組織と清潔さ、そして思いやりが素晴らしく、私はとても好きな国です。将来については、国民の高齢化、そして企業などが他の国へ製造を移していることから、私は経済的な立ち直りに楽観的ではない。だからこそ我々外国人、特にブラジル人は、こちらでの滞在を考え直すべきだと思う。

・日本社会は全体的に丁寧でとても礼儀正しく感じます。ブラジルと違って、日本は思いやりや責任を失っておらず、こちらで暮らせることはとてもいいことです。日本語を覚えて日本人と楽しく会話が出来よう、もっと日本人と接したいと思います。会話が出来て初めて日本人の生き方や文化を知ることが出来ると思います。日本では全てが正常に行われる。日本で暮らしている間、ブラジルでの思いやりの無さ、泥棒、悪党、政府に潜んでいる泥棒や効果の無い法律などに腹が立ちました。日本社会については、グローバル化の強化で日本社会に大きな変化が起きており、それが普通だと分かりますが、アメリカの影響で若者は日本の価値観を失っていき、とても心配です。進化するためには、グローバル化が必要で、反対するわけじゃないけど、自分の価値観を持ちながら他人の価値観を受け入れ成長することが大事です。

・人種偏見

・日本は暮らし易いですが、食費、家賃、税金が高いので、お金を貯められる場所ではありません。

・どの国であろうと、無学であれば大変です。出稼ぎの短期間でもとても大変です。読み書きが出来なければ、日常生活でも色んなチャンスを無くしてしまいます。日本社会は組織化されているけど、硬すぎると思います。ブラジル人からしてみれば謎ですし、そのせいで多くの誤解が発生します。

・日本社会はブラジル人の存在を納得していない。

・私が働いたどの工場でもとてもよくしてもらいましたが、派遣会社については少し物足りないと思いました。

・日本の文化から沢山教わり、物の大切さ、例えばお金の大切さを覚えることが出来ました。

・日本で暮らしながら今まで感じたこととしては、社会的、そして経済的に安心だということです(不況までは)。

・日本人について：外国人に対してもっと優しくしてもらいたい(日本国民がもっと楽に生きるべきです)。

・文化、言語、風習を知って、理解できるように努力をすれば、とても暮らし易い国です。そうすれば、日本が供給する施設などをもっと活用できると思います。静岡県で最近行われた調査の結果のように、多くの日本人は外国人に対して抵抗があるのです。この結果が犯罪率の増加に一番の影響を与えてしまっているのです。但し、国民の高齢化が原因で、外国人の労働者がどんどん必要になりました。そういった現実を理解してもらおうことが、社会でよりいい生活を送るための方法を探し出す第一歩だと思います。

・地域によればブラジル人は良く見られておらず、長年にわたって、我々の民族の一部のせいで、特権などがなくなりました。仕事の種類やチャンスなどが変わり、少ない給料にも関わらず、さらに色々と要求されるようになった気がします。25歳以下の若者にとっては幻のようですが、もっと年老いた人にとって経済的に前進するために日本はいい選択肢だと思います。世界不況ですのであまり希望は持てませんが、乗り越えられるために頑張ります。私が日本に戻った一つの理由は治安がいいからです。

・日本で仕事をしていればいい生活が出来ますけど、していなければブラジルよりも悪い生活を送ることになります。全部ひらがなでごめんなさい。(日本語で自著)

・日本社会への希望は、いつか両方の国籍に対して差別がなく、共同生活が出来ることです。

・日本の風習から沢山教わり、特に子供を育てる面では

安全で、安心して暮らせました。少しずつ受け入れてもらいたいのが日本社会への希望です。

- ・日本社会に外国人の価値を分かってもらいたいです。
- ・安心と安全。ブラジルに居る家族が恋しいですが、この国で暮らすのが大好きです。私はこちらに居られることで、とても幸せです。日本社会については、いつも良い希望だけを持っています。

- ・日本社会において外国人の差別を少なくしてほしい。
- ・私にとってはとてもよかったです。色々覚えましたが、ブラジルでいくつか欲しい物を手に入れることが出来ました。将来向こうでやっていけることを望んでいます。ただ、若き日々を日本で働きながら失ってしまい、その頃、ブラジルで過ごせなかったのが残念です。一方、ブラジルで所有物を購入することが出来ました。日本は安全で、強盗に遭うことなく、物や命を奪われることがなく、とてもいいです。ブラジルも日本のように治安が良ければ、と思いますが、私たちは日本人じゃないし、生活していく場所を自分で選んだ以上はそこに合った生き方をしなければなりません。日本国民は礼儀正しく、親切で思いやりのある民族です。私は何度か助けてもらいました。場合によっては、読み書きが出来ないからと、全部やってもらったりしました。とても感謝しています。無学だということが原因で、私の居るべき場所はブラジルだと思います。自由にできず、ずっと手を借りることになってしまうのです。ほとんど会社の中での生活ですから、勉強をする時間が足りません。私にとってはよかったです。どうもありがとうございました。

- ・日本での生活は、今も昔も、とてもいいです。日本国民の風習や伝統は北から南までほとんど同じです。今まで日本で問題なく暮らしてきました。これからもそのつもりでやっていきたいです。純粋で思いやりのあるこの民族は私たちの祖先であって、信頼してもらうまでは大変ですが、それからはいい友達になれるのです。もちろん例外はありますが、数少ないです。

- ・最初は、故郷や友達から離れるのが辛かったけど、今は日本がとても好きです。日本経済が良くなるように応援しています。頑張ってください。

- ・物価が高くなり、収入が減っています。
- ・工場の仕事はひどく疲れますが、それ以外、日本での生活は楽しかったです。日本はきちんとしており、安全できれいな場所ですから、私は大好きです。日本語があまり上手じゃないので、日本人と仲良く出来なかったのはとても残念です。

- ・これだけの期間、日本で暮らして気付いたことは、安全な場所だということです。強盗に遭う恐れがなく、安

心して道を歩けます。でも、不況後は少し不安でした。なぜならば、沢山の人が未だに無職で、他にやることを見つからないと、罪を犯してしまいます。そして、ドルに対しての円高はまた不況になる恐れがあるので、将来に対して不安です。再び不況に遭わないため、政府が経済的な問題を解決してくれるよう期待しております。

- ・私はこの国に感心します。社会が私を「失敗だ」という目で見て欲しくないです。私は祖父母と同じように、日本に対して貢献しているだけで、やるべきことはきちんとやっています。祖父母が日本を離れてブラジルへ渡ったことが、日本にとって必要だったということを社会に理解してもらいたい。そして私がブラジルを離れ、こっちに来たのも、同じ日本が必要としたからです。それ以外言うことはありません。

- ・もっと安全と安定性を感じました（利点）。差別と生活の質が低い（欠点）。日本に対して希望はなく、私の未来はブラジルにあると思います。

- ・日本であろうが、ブラジルであろうが、行き先を決めるまでは高い生活水準が欲しいです。

- ・私は日本の文化をだんだん好きになり、この国で稼いだお金の価値観が分かるようになりました。これからももっと教えてもらって、日本語の能力を高めて、帰国したら日本語を大学で教えられるようになりたいです。日本に来たお陰で今の生き方とこれから歩む人生を新たな目で見つめることが出来ました。

- ・日本国民が仕事に専念し、日本人の真剣な気持ちに対して私は尊敬し、感謝しております。日本のお陰でブラジルにおいて様々なビジネスチャンスをつかめました。家を購入し、子供を大学に行かせ、両親を助けることが出来ました。オートマチックトランスミッションの車に乗り換えることも出来ました。オートマは便利ですから、ブラジルでもこういったタイプの車にしました。1998年に日本で車の免許を取得し、初めてこんなに便利な車を運転する快感を味わえました。私は日本もブラジルも愛しています。私は日本人の専念するところと、ブラジル人の温かさを持つ日系人の性格です。

- ・場所によっては未だに外国人が差別を受けています。もっと礼儀正しくするべきです。一般化されてしましますが、みんなが悪い人間ではないのです。

- ・良かったです。仕事をやる機会がある国です。日本人との共同生活がだんだんよくなっていくことを望みます。

- ・日本で暮らし始めた最初のころは全てが珍しくて、品物が安いと思い、好きなものは全部買ったりしました。でも現実とは違って、お金ばかり使ってしまう、貯金

していませんでした。妻のお陰で考え方を变えることができました。今思うと、ブラジルで手に入れた全てが日本のお陰です。感謝しています。日本社会については、仲良くしたいかどうかは人それぞれだと思いますが、私は日本人の友達がいて嬉しいし、社会的にもいいと思います。

- ・冷たい民族ですから、共同生活は難しい。
- ・私からしてみると、日本人は外国人を温かく受け入れてくれていると思います。このような国を知ることが出来て、私の成長にとってとてもよかったです。不況はグローバルな影響を与えてしまいましたが、日本は「ビッグ」なチームの一員なので、すぐに立ち直れると信じています。
- ・我々ブラジル人は、ちゃんと仕事をしているかどうか確かめてもらえず、真っ先に工場を首になるのです。派遣会社を通して雇われているだけなので、長年同じ会社に勤めていても、不況な時期が来ると真っ先に首にされます。
- ・経済的な変化はなかったけど、生き方や考え方の変化、そして責任感を持つようになりました。日本人としか仕事をしなかったのも、私はプライベートでも、日本人と同じように過ごしていました。日本とブラジルの文化はとても違います。私は日本で生まれたかのように、生活をしています。
- ・私は二重国籍なので、どちらも（日本・ブラジル）好きで、ブラジルや日本の悪口を聞くと悲しい。日本人とブラジル人の関係は難しいです。日本人は、ブラジル人が危ない人間だとか、ニュースで見た別の理由（治安の悪さ、誘拐など）でブラジル人を怖がってしまいます。お互いの関係をよくするには、お互いの文化の情報を取得し、人種偏見を少なくすべきです。ブラジル人は危なくないし、日本人は冷たくありません。私はブラジル人であって、日本人でもあり、どちらの国も愛しています。
- ・日本はブラジルより暮らし易いです。仕事さえあれば全て手に入るし、日本国民のほとんどがとてもフレンドリーですから、我々外国人にとっては気持ちのいいことです。こちらで暮らすのが好きなので、まだ長く居つもりです。未だに差別は生じていますがそれくらいは仕方ありません。
- ・工場では厳しいけど、生活するには日本はいい国です。犯罪に対する安全性、そして経済的な面では安定しています。ほとんどの日本人は受け入れてくれる姿勢を持っており、とても礼儀正しいです。
- ・仕事をするための機会を与えてくれましたので、感謝

しています。

- ・日系二世の時代が終わり、日系三世とか純粋なブラジル人が入国し始めてから日本人に迷惑がかかるようになりました。入国する人をもっとよく選ぶべきだと思います。
- ・日本国民は冷たくて、仲良くするのが難しいです。私は人種偏見を受けました。日系人であるからこそ、傷つきました。治安がいいので、夜でも安心して道を歩けるし、公園で子供たちを自由に遊ばせることができ、いいです。
- ・私は、初めて来日した時から現在に至るまで、希望は持てず、外国人に関して何も良くならなかったです。義務や権利については、いつも社会の端っこに置き去りにされています。特に私の世代では、漢字や風習が壁になってなかなか貫くことができません。
- ・日本は人生を変えるチャンスを与えてくれるとてもいい国です。日本に受け入れてもらい、とても感謝しています。こちらの文化から沢山教えてもらい、これからももっと教えてもらいたいです。
- ・日本で生活するのが大好きですが、人種偏見をすごく感じます。
- ・日本はブラジルのように危なくないので、生活するにはいいです。日本語が話せないのも、時々、コミュニケーションを取るのが困難ですが、英語を使って会話します。文化はとても違っていますが、親が日系人なので、日本に問題なく慣れました。ただ、仕事をしている間とその後も、ストレスをすごく感じます。それが気に入らなかつた。何故か分かりませんが、日本に居るブラジル人は変わっています。胡麻播ったり、人よりもっと働こうとしたり、ゴシップ、ずるいことをしたりします。それが一番の問題でしたが、いいこともありました。以前、私は文句を言わず、なんでも大目に見ていましたが、今は自分のために戦うことが出来るようになりました。他方、ストレスがたまるので、人に頼られてグループで働くよりは、一人で出来る仕事に就きたいと思っています。
- ・安全、安定、便利だと感じました。でもこれからは仕事の面でもっと厳しくなっていくと思います。能力を高めて、仕事のレベルを上げるために講座などに通って、勉強しないといけないと思います。
- ・安全、安心して暮らせます。犯罪や治安については、日本はとても安全です。但し、社会的な生活はほとんどしていません。交流が少し足りないと思います。
- ・治安がいいので、気持ちよく暮らせます。私自身と家族の将来の見通しがよくなりました。故郷に居るより、

家族にもっといい暮らしをさせることができます。日本社会のことが大好きです。

・日本に暮らしていて、昼間や夜でも、とても安全だと感じました。役所では丁寧な接客を受けることができます。ブラジルと比較すると、とても違って、こちらでは全てが正常に動くのです。

・強盗や治安の面では、安全だと感じました。工場やお店などで数人の日本人から差別を受けました。ある程度の経済的な安定（2008年の不況までは）。現在はあまり安定していません。仕事の負担が大きいため、健康に影響し、後遺症がずっと残る恐れがあると思います。ブラジル人の従業員は心と体のケアについて不注意だと思う。日本で働いているブラジル人に対して、年金プランや食費の援助、医療機関を無料で利用できる制度などが足りないと感じました。税金や社会保険が高いのに、権利については少ない気がします。悪用する派遣会社が存在します。そんな会社にしか頼れず、また私たちの労働権利のために戦えず、無力な気がします。

・日本のことが好きです。教養ある国で、こちらでは全てが正常に動いています。仕事さえしていれば、立派で快適な暮らしを送れます。ブラジルだと、仕事が見つからなかったり、支払いなどを済ませることが出来なかったり、健康のケアも受けられず、ちゃんと暮らせません。こちらで時には人種偏見を受けたりします。私たちは「使い捨て」みたいな扱い方をされます。私たちも人間ですので、尊重してもらいたいです。日本とブラジルのそれぞれの良いところを一つの国にまとめることができれば、夢のような国になります。色々な事があるけど、感謝の気持ちでいっぱいです。日本、ありがとうございます。

・礼儀正しいけど、友情と医療の面では冷たいです。ブラジル人が少ない小さな町や、ブラジル人の若者が多い地域だと人種偏見が起きています。でも、一番悪いと思うのは、ブラジル人同士の競争です。

・工場でも働いてイライラしました。でも日本はきれいで豊かな文化をもっており、日本と日本人が大好きです。文化について少し覚えたので、帰国したら子供や知人にその文化のことを教えるつもりです。ただ、外国人であるためなのか、出かけると人々が私を見て何故か笑ったりします。その理由で出かけるのがあまり好きじゃないです。外国人が変わっているからかも知れない。それでも私は日本人を尊敬し、このきれいな国を愛しているのです。

・工場での厳しい日々を取り除くと、日本は安全で、暮らし易く、組織化されている国です。他にもいいことば

かりです。日本社会についても同じような気持ちです。

・日本社会への希望を持つ理由なんて一つもありません。ひどい扱い方をされて病気になりました。やること全ては私と家族が都合よく生きていけるためです。これまでの質問を自分の経験から答えました。日本社会とは全く関係ありません。

・お金のトラブルで結婚がダメになりました。妻は子供を連れて行き、ずっと子供と会えない状態です。5年以上一人で暮らしていて、神様のお陰で生きています。病気になっても誰にも助けてもらえなかった。十分な貯金も出来なかった。税金を払わされ、請求書ばかりきて、残るお金は食費と服を買うためです。遊びに行ったり、本当の友達を持ったりすることを知らないです。ほとんどの人はウソつきでサークル以外の人とは付き合ってくれません。ここでは自己中心で高慢な人々ばかりで、不道徳な行為しか目に映りません。ここに来る前までは沢山の夢を持っていたし、やる気もありました。でも年月が過ぎて行くうちに、日本とその人間の本当の姿が見えました。イエスキリストを通じて神様だけが私を支えてくれるのです。

・日本語を習って、日本で沢山のことを教えてもらいました。こちらは安全で、安心できる所だと感じました。日本人とも友達になりました。日本社会や文化は良いと思います。

・日本国民がどんな人間であるのか分からなくて、最初はとても怖かったです。幼い頃、日本人は指を切ったりする民族だと、悪い話ばかり聞かされました。大きくなってから日系人に恋をしました。聞かされた通りではないかもしれないし、本当のことかも知りませんでした。日本人は凶暴で、礼儀の無いとても悪い民族だと信じていました。世界のどこにでも悪い人間はいます。私と仲良くしている日本の方々は、とても礼儀正しく、外国籍の方を良くしてくれるので、私は大好きです。日本語を覚えた後もこんな考え方が続いてほしいです。

・暴力の無い、さすが第一世界の国だと感じました。強盗に遭う心配もせず、安心して暮らせる場所です。

・いい方向に色々と変化が起きたと思います。私は今、もう少し貯金をしてこれを最後にしてブラジルに戻るつもりです。

・社会保障について安心しました。組織化されていることや、道がきれいなことはさすが第一世界だと思います。

・日本に来てから人の意見を聞くようになり、仕事上では他の人が何をしようが、文句など付けず、自分のやるべきことをやるようになりました。私が住んでいる

場所の法律や働いている工場のルールを守るようになりました。物を大切にできるようになりましたし、環境や職場を大事にすることを学びました。今では、以前より周りの人と仲良く生活できるようになったと思います。但し、未だに理解できないのは日本人の考え方です。場合によっては、日本人は必要以上に物事を難しくさせている気がします。その他、一つだけ納得できないのはブラジル人に対しての人種偏見です。そんなことはないと言われても、ほとんどの日本人は友人に「ブラジル人の友達がいる」と認めたりしないと思うし、娘さんとブラジル人のお付き合いを決して許さないとします。それでも私は、日本の文化と日本人の性格を尊敬しています。

・こちらで10年間暮らしていますが、外国人に対しては大きな変化をあまり感じませんでした。私は昔、人種偏見を受けましたし、現在4歳の息子も公園やお店などで人種偏見を受けています。起きた変化はほんの少しでしたが、私はこちらで滞在した日々感謝しております。こちらで得た経験と貯めたお金で、ブラジルでいい暮らしが出来れば良いと思っています。外国人については、仕事上、さらによくなって欲しいです。日本の教育、組織化はブラジルとは全然違いますが、ブラジル人には物足りないものだと思います。

・日本に来て、きれいにしてある場所や礼儀正しい人々を見て、先進国だと感じました。失業したこともなく、正当な給料をもらっています。

・私は日本という国と、その文化や民族を愛していません。なぜならば、この国で私の祖父母の歴史が始まり、同じように私の子供たちは私の歴史を知ることになるからです。

・日本社会とブラジル人の共同生活は不可能です。ブラジル人は教育、文化、伝統、階級や敬意がないのです。日本から全てのブラジル人を帰国させるべきです。今すぐに。日本はブラジル人に値しません。

・日本での生活は13年近くになります。こちらでは安心と安全をととても感じます。但し、レジャー場所が足りないと思うし、駅から離れた場所に住んでいる人にとっては移動が困難です。日本社会との共同生活については、今まで問題がなかったのが、文句ありません。逆に、私は日本人と仲がいいです。希望としては、みんなのためにも日本経済が良くなってほしいと思います。

・外国人をずうずうしく差別する人間と付き合う気なんて全くない！彼らは同じ人種としか仲良くしないけど、だからといって私は法律を破ったりしないし、ここに居る限りは敬意を持つようにしています。

・私は昔も今も、日本人との付き合いは難しいと感じま

す。外国人であることから、会話は困難であり、日本人から差別を受けます。差別はお互い様かも。ブラジルに戻って家族（母、父）の世話と自分の所有物を大切に扱おうと思っています。こちらで生き残っていくのはまだまだ難しいです。大変ですし、ストレスが溜まり、精神的に傷つきます。家から職場へ、職場から家へと、リラックスできる暇がありません。

・私と家族を支えるための仕事さえ与えてくれば、日本は暮らしやすい場所だと思います。

・日本はとても暮らしやすい場所です。かなり穏やかで、組織化された国です。私はここが好きでも、差別の存在に少し悩まされます。あからさまではないけど、工場やスーパー、公園などで感じられます。もちろん私たちを受け入れて、私たちの文化を知ろうとする日本人もいます。我々の祖父母が様々な理由で、他の場所で生活しなければならなくなったことについて、私たちに罪はありません。私たちが侵入者だと思っている日本人にそれを分かって欲しいです。そして私が別の国で生まれていても、私が持つ血液とDNAは日本人と変わりありません。こういったことからブラジルに戻りたくありません。

・仕事は少しきつく、しんどいと感じました。でも福祉と安全については、気に入った！

・こちらで得た経験と手に入れられた物、達成したすべてについて、私は感謝しています。

・2008年以降、父が失業しました。私は大学入学の一步前でした。でも生活のために高校でやっていたバイトを続けて、夏（2009）に今の会社に入りました。本当は大学に行きたいです。私が思うのは、学校などで、外国人の子供達にもっと情報が届くようになればいいと思います。前もって準備とかがしていれば、今は大学2年生でした！日本で暮らすのは好きです。日本で育っている子供が増えたので、教育の面をもっと考えてほしいです。（日本語で自著）

・私は日本で暮らしている間に、少しずつ日本の文化を理解し、受け入れることが出来ました。ブラジルや西洋世界とこんなにも文化が違いますが、私はいくつかの習慣を身につけ、再教育を受けました。

・ブラジルに存在する日本植民地は日本国民を褒め称え、高く評価しましたが、出稼ぎ現象後はこのイメージが大きく変わったと思います。最近ではブラジル人の受け入れについて、もちろん変わってきましたが、今も将来も日本人と「外人」の間に距離というもの存在します。不況が続いたら、政府は、一つの選択肢として、外国人を追い出すことになりかねないと思います。社会保

険は法律で義務付けられていますが、派遣会社や工場などが不当なことをしていても、政府は見ないふりをしてきました。派遣会社は沢山儲かりますが、税関にその多くの金額は届け出されていません。そして状況が厳しくなると、派遣社員の給料を少なくすればいいという考えです。企業や政府は、この派遣社員も消費者であって、国内経済を動かしていると分からないのかしら？正社員だけが消費者であって、正社員だけが家族と豊かな生活水準を持つ権利があるのでしょうか（多くの正社員は工場のことを全然気にしていない）。派遣社員は次の大不況に生き残れないと思います。交流を望んでいる政府の一部に感謝しています。きっとブラジルに移民された日本人はこんなに運が良くなかったでしょう。ありがとうございます。私が生きている間に民族主義の壁がなくなって欲しいです。

・人種偏見を受けていても、母国より沢山の人に良くしてもらいました。日本国民に対して尊敬し、感心しています。

・共同生活については私も子供も問題なく暮らしてきました。子供達は保育園や学校でもよく受け入れてもらいました。但し、親戚や友人が愛おしいので、永住が困難です。

・やっぱり日本に来て、大変なことをいっぱい経験しましたが、来てよかったなあと思っています。後、今派遣社員として会社で働いているけど、いずれ大学に入って自分の好きな職業に就きたいと思っています。（日本語で自著）

・日本語が分からないので、差別を受けました。日本で帰化したいと思っています。子供が日本教育にとっても馴染んでいるので、こちらで永住するつもりでいます。

・安全性、衛生面、そして仕事をするチャンスがあるこ

とから、日本で暮らすのが好きです。文化の違いで何度も気まずい状況に遭いましたが、乗り越えることができました。但し、理解できないことがいくつかあります。日本の女性はなぜ妊娠を防ぐためのピルを飲むより、中絶を好むのでしょうか。同じ仕事なのに、なぜ男性は女性より給料が高いのか。なぜ、特に子供の間で、自殺率がこんなに高いの？全体的に、仕事をするチャンスを与えてくださって感謝しています。もちろん例外ですが、私には日本人のいい友達があります。

・最初は大変でしたけど、日々の生活や社会での仕事で、会話ができるようになりました。今まで積み重ねた経験で、どんな職場に行っても実力を持って、速やかに仕事ができます。

・今になってブラジルに行った両親がどれだけ大変だったか分かるようになりました。私たちはその逆の方向で渡ってきているのです。

・家族といい暮らしが出来るので、達成感を味わえました。

・仕事をしているといい気分ですし、自由にできて、豊かで穏やかな生活を送っています。

・日本は暮らし易いです。強盗に遭ったことがないし、衛生面はいいです。日本語を使って会話したいけど、なかなか言語知識を高めることができません。日本語を教えてくれる人がいないのです。それは私にとって、失望の理由の一つです。

・日系人であることから、日本に着いた時から全然問題などなかったです。文化と生き方が違っていても、職場や社会で日本人とのお付き合いはいつも良かったです。日本で行儀よくしていれば、安心して暮らせることができ、周りの人と仲良くして生きていけます。

Brazilian Workers in Japan under the Recession since 2008

YAMAMOTO Kaori and MATSUMIYA Ashita

This paper reports the results of questionnaire research to Brazilian worker employed by a temp agency in Aichi. The research was conducted in October 2010, 900 were distributed and 489 were valid.

The aim of this research was to see how the ongoing recession that began in autumn of 2008 affected Brazilian workers in Japan, and from the research it is very clear that they were seriously affected. More than 50% of the respondents once lost their jobs, 70% said that their income was decreased after the recession. Moreover 25% of the respondents were once on welfare.

After experiencing these difficulties, the respondents now have jobs and continue their lives in Japan. We tried to see who could get a job and remain in Japan after the recession by asking their basic attributes (sex, age, visa), social network such as family and Japanese language ability. Also we tried to analyze some factors which affect their future—going back to Brazil or continue living in Japan.